

問 大木町民が楽しみに待っている図書施設、ホールの改築整備構想は。

答 町民と行政との協働で、身の丈にあった施設整備を。

問 図書施設、ホールの改築整備構想を聞く。

町長

①多世代が学べる図書機能
②多彩な活動や表現ができる創作・展示・ホール機能

③多様な町民活動を支援する活動支援機能を想定している。これらの機能を、今ある資源（就業センター）を有効活用して、身の丈にあった施設整備を行っていきたい。

問 改築ということ、現状と問題点を聞く。

町長

①改造工事にかかる費用を、2億円程度を目安にすること。

②4年以内（22年度まで）には事業を完了させること。

③耐震基準を満たしていくには、改造内容や範囲に限りがあることを留意しつつ、きちんとしたデータ等を収集し考え方を明示しながら進めていきたい。

問 町民参画による整備運営計画、事業費2億円程度、補助事業の活用との事だが詳細を聞く。

町長

町民参画による整備・施設運営計画及び予算措置等については、徹底した情報公開を行うとともに、整備計画づくりにとどまらず、運営に関しても積極的に町民の皆さんに参画していただきたい。

整備計画専門家及び責任者レベルで構成する推進委員会と町民委員会の2つの組織を発足させ、事業を推進していきたい、町民の皆さんの力をフルに発揮していただき、行政と協働しながら進めることで、「満足」や「納得」を得られるものと考えている。

予算に対する交付金等の活用は、各省庁関係の事業を現在調査中、活用できる事業メニューを絞り込んで、取り組んでいきたい。

問 社会教育、学校教育の視点から町立の図書施設、ホールのコンセプトを聞く。

教育長

生涯学習推進の中核と位置づけられている知的学習の場である図書館機能と、町民の文化活動の成果を生かす場の確保も重要であることから、今後、リニューアルをすべく多面にわたり検討していくが、公民館機能、図書館機能、あるいは文化会館的機能のバランスをどう図るのかは、アンケートによる町民の意向や今回設置する町民委員会での町民のニーズを基に慎重に検討することが重要であると考えている。

その他、検討の視点として、図書館来館者が文化活動に、文化活動者が図書活動に興味関心を示す相互作用の効果を生み出すことが重要である。

特に、少子高齢化社会がますます進む中、高齢者の学習意欲をかき立て、その成果を子育て支援など社会

参加に生かすハード・ソフト面での施設も重要な検討の視点である。

問 学校図書館との連携を聞く。

教育長

各学校間は勿論のこと、改修後の改善センターやくるるん学習室、その他社会教育施設、スポーツ・体育施設、健康福祉棟などとのオンライン化を進め、児童生徒や改修後の改善センター利用の町民の方々がインターネット上で図書情報を把握し利用できるシステム作りを行っていかねればならない。そのためには、バーコード化を推進する必要がある、学校図書館については、バーコード化が終わっていない小学校を本年度から順次整備していく。

